婦人関係資料シリーズ
調査資料NO.33

社会サービス活動と婦人の意識

— 調査結果報告 —

1963年

労働省婦人少年局

はしがき

労働省婦人少年局では、婦人の地位をたかめ、婦人が社会に積極的な役割を果せるようたえず努力していますが、このたび社会福祉をすすめる上に重要な役割をもつ市民による自発的社会サービス活動（ボランタリー・サービス）について、婦人の意識と参加の実態を把握することを目的として、この調査を実施しました。

調査結果のあらましは、既に発表済みですが、この報告書ではより詳細にわたつて結果をとりまとめました。婦人の社会サービス活動に関心をもたれる方々にとつてご参考になれば幸いに存じます。

この調査では、調査対象を全国抽出によつてえらびましたが、その際とくに統計数理研究所（国立）の御協力をいただきました。こゝに厚くお礼を申し上げます。

昭和38年8月

労働省婦人少年局

目　次

はしがき

Ⅰ　調査の概要 …… 1

1.　調査目的 …… 1
2.　調査対象 …… 1
3.　抽出方法 …… 1
4.　調査方法 …… 1
5.　調査時期 …… 1
6.　実施機関 …… 1
7.　対象者の特性 …… 1
(1)　世帯主との続柄 …… 1
(2)　年令 …… 2
(3)　配偶関係 …… 2
(4)　子ども …… 3
(5)　学歴 …… 3
(6)　特殊教育訓練 …… 4
(7)　資格、免許、特殊技能 …… 4
(8)　職業 …… 5
(9)　世帯収入 …… 5
(10)　団体加入状況 …… 6
(11)　公職 …… 6

Ⅱ　調査結果要約 …… 7

Ⅲ　調査結果 …… 9

1.　社会サービス活動の必要性についての意識 …… 9
2.　社会サービス活動の現状についての意見 …… 12
(1)　公的援助について …… 12
(2)　市民による援助について …… 15
3.　社会サービス活動への参加の現状 …… 17
(1)　弱い立場の人々のために …… 17
(2)　社会一般の向上のために …… 21
4.　社会サービス活動への意欲 …… 22
5.　社会サービス活動に参加しにくい理由 …… 23
6.　参加を希望する社会サービス活動の種類 …… 25

I 調査の概要

1. 調査目的

自発的な社会サービス活動についての婦人の意識及び活動状況をあきらかにし、広く関係団体、機関、社会一般の参考に供することを目的とする。

2. 調査対象

全国大中都市（人口１０万以上）に居住する２０才以上の婦人1,６００名、但し、回収数1,478名

3. 抽出方法

イ、調査地点

各市区の人口に比例するウエイトを与えて無作為抽出方法により８０地点（投票区）を選定（巻末地点表参照）。

ロ、個人

選ばれた投票区の有権者名簿により女子有権者の中から各地点２０名づつを無作為抽出。

4. 調査方法　面接法

5. 調査期日　昭和38年2月

6. 実施機関　労働省婦人少年局

7. 対象者の特性

(1) 世帯主との続柄

世帯主の妻であるものが６９％で大半をしめ、本人が世帯主であるものおよび娘がそれぞれ１０％前後、母親５％である。その他の中には嫁，同居人がふくまれている。

計		妻	娘	本人	母	姉妹	その他
実数	%						
1,478	100	69 %	11 %	10 %	5 %	1 %	4 %

(2) 年　令

30代がもつとも多く27%、ついで20代　25%、40代　22%で、60才以上は10%と少なくなつている。

計		20代	30代	40代	50代	60才以上
実数	%					
1,478	100	25 %	27 %	22 %	16 %	10 %

この年令別分布を昭和35年国勢調査の市部女子20才以上人口のそれと比べると（本調査は人口10万人以上の都市に限定しているので厳密に比べることはできないが）、本調査は国勢調査よりも20代、60代が少なく、30代、40代、50代の中年層が幾分多くなつている。

昭和35年国勢調査 市部女子20才以上人口		20代	30代	40代	50代	60才以上
実数	%					
18,715,100	100	31 %	25 %	18 %	13 %	13 %

(3) 配偶関係

有夫者が74%と大部分であり、未婚者と死・離別者はそれぞれ13%である。

計		有夫	未婚	死別	離別
実数	%				
1,478	100	74 %	13 %	11 %	2 %

国勢調査の分布と比べると、さきの年令分布で中年層が多いために、有夫者の割合もやや高くなつている。

昭和35年国勢調査市部 女子20才以上人口		有夫	未婚	死別	離別
実数	%				
18,715,100	100	64 %	17 %	16 %	3 %

(4) 子　ど　も

同居している子どものある人は全体の73%（既婚者だけについてみれば84%）であつて、そのうち学令以前の幼児をもつものは約1/3である。

計		子どもあり			子どもなし
実数	%	小計	学令前の子どもあり	学令以上の子どものみ	
1,478	100	73 %	24 %	49 %	27 %

(5) 学　　歴

最終卒業学校は旧高女が最も多く30%、次いで高等小学校26%、新高14%、新中10%となつている。義務教育のみのものと、義務教育以上の教育をうけたものの割合は大体半々である。

計		小学校	高等小学校	旧中（旧高女）	新制中学	新制高校	旧専 旧大 新大	その他	不明
実数	%								
1,478	100	12 %	26 %	30 %	10 %	14 %	5 %	2 %	1 %

国勢調査の結果と比べると、学歴は全体的にやや高めである。

昭和35年国勢調査市部 女子20才以上人口		小学校	高等小学校	旧中（旧高女）	新制中学	新制高校	旧専 旧大 新大	その他（青年学校）
実数	%							
1,478	100	20 %	30 %	20 %	13 %	11 %	4 %	2 %

(6) 特許訓練教育

一般学歴以外に特殊訓練教育をうけた人は、全体の１２％にあたる。うけたものの種類は、和洋裁、編物といつたものが多い。「その他」のうちわけは、料理、速記、写真、茶道、書道、人形製作、外国語などである。

計		洋裁	和裁	編物	華道	タイプライター	看護婦教育	教員	その他
実数	%								
215	100	37%	18%	8%	8%	6%	5%	3%	27%

（多答式なので合計は１００にならない）

(7) 資格、免許、特殊技能

資格、免許証、特殊技能等をもつている人は、全体の２２％にあたる。資格、免許証等の種類では、教員免許証をもつている人が最も多い、次いで、そろばん、タイプ等である。「その他」のうちわけは多種にわたり、簿記、編物・手芸教師、助産婦、医師、あんま、司書、茶・華・書道師範、危険物取扱主任者免許、映写技師、衛生管理者、トレース、ダンス教師等である。

家庭にあつて家事のみに専従している人の中でも１８％の人が、これらの資格、免許等をもつている。

	計		教員				看護婦		栄養士	そろばん	タイプ	自動車運転	美・理容師	洋裁	和裁	その他
	実数	%	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	正	准								
計	330	100	3	11	11	8	8	1	2	20	12	7	3	5	2	27
家事のみの人	141	100	4	9	11	5	8	1	3	19	12	11	2	8	4	23
その他の者	189	100	3	13	11	11	9	2	2	21	12	5	3	3	2	31

（多答式なので合計は１００にならない）

(8) 職　業

職業をもつもの４１％、もたないもの５９％で、もたないものの９割は家事に専従する家庭婦人である。４１％の有業者中２２％は雇用者であり、自営者８％、家族従業者６％、内職従事者５％となつている。無業者中「その他」には、老人、病人がふくまれる。

計		有業者	自営者					雇用者					家族従業者			内職者	無業者			
実数	%		小計	農林漁業	商工鉱業	サービス業	自由業	小計	管理者	事務技術職	労務職	販売サービス職	小計	農林漁業	非農林漁			家事専従	学生	その他
1,478	100	% 41	% 8	% 0	% 5	% 3	% 0	% 22	% 0	% 10	% 7	% 5	% 6	% 1	% 5	% 5	% 59	% 53	% 1	% 5

（注：０％は０.５％にみたない、—は全然ないことを示す）以下同じ

全国の分布状況と比べると、本調査は農家人口の少ない10万以上都市に限つているため、家族従業者が少なく、家事専従、内職がやや多くなつている。

昭和35年国勢調査 市部女子20才以上人口		有業者	自営者	雇用者	家族従業者	内職者	無業者	家事専従	学生	病気・老令	その他
実数	%										
18,715,100	100	44%	6%	22%	15%	1%	56%	48%	1%	6%	1%

(9) 世帯収入

世帯の収入を階層別にみると、手どり月収２－５万円の層が５５％と過半数をしめ、２万円未満の世帯は１９％、５万円以上の世帯は２４％である。

計		2万円未満	2－5万円	5－10万円	10万円以上	不明
実数	%					
1,478	100%	19%	55%	18%	6%	2%

(10) 団体加入状況

対象者のうち何らかの団体に加入している人と加入していない人の割合は大体半々である。加入している団体は、ＰＴＡ、町内会婦人部、地域婦人会といつた網羅的な団体が多く、その他の有志団体に加入している人は少ない。

計		入つている								入つていない
実数	%	小計	地域婦人会	ＰＴＡ	町内会婦人部	労組職域	各種有志団体	農協婦人部	青年団	
1,478	100	49%	16%	21%	20%	5%	3%	1%		51%

（加入している団体が重複するので、合計は計に一致しない）

団体に加入している人のうち12%の人が役員となつている。そのうち半分はＰＴＡ役員である。

計	ＰＴＡ	町内会婦人会	地域婦人会	各種有志団体	労組職域団体
12%	7%	3%	1%	1%	−%

(11) 公　職

公職についている人は1%、公職の種類は民生委員、文部省教科書編集委員、国民年金協力委員、社会教育委員などである。

計		あり	なし	不明
実数	%			
1,478	100	1%	96%	3%

Ⅱ 調査結果要約

1. 社会サービス活動の必要性についての意識

弱い立場の人々 ― たとえばみよりのない貧しい老人 ― をだれが援助すべきかということに対して、調査対象者の49%が積極的に市民による援助活動の必要を認めている。個人よりも公的に援助するのがいいとするものは43%である。市民による援助も公的援助も必要とみとめないものは少ないが、少数が本人又は縁者で解決すべきだとしている。市民活動の必要をみとめるものは若い層ほど多く、従つて学歴別にみても新中卒、新高卒に多く、6大都市よりも中都市にやや多い。職業別には雇用者、家事専従の主婦に多い。

2. 社会サービス活動の現状についての意見

(1) 公的援助について

市民による援助活動についての評価と対比するために、みよりのない老人、子ども、病人、体の不自由な人など弱い立場の人々に対して国や市はよく援助していると思うかという質問をしたところ「やり方が足りない」という答が42%を占め、「よくやつている」7%、「まあまあやつている」30%の計37%をやや上廻つている。年令別にみると、年令の若いほど「やり方が足りない」という答が多く、年令が高くなるにつれて「よくやつている」の答がふえている。6大都市では中都市よりも「やり方が足りない」という答が多い。そのほか「わからない」という答が19%でかなり多い。

(2) 市民による援助について

全体的に社会一般の人々や民間の団体は、弱い立場の人々に対してよく援助していると思うかという質問に対しては、「やり方が足りない」が38%で、「よくやつている」8%、「まあまあやつている」28%の計36%をわずかに上廻つている。この場合には国や市の援助に対する場合より「わからない」という答がさらに多く24%に及ぶことが注目される。

3. 婦人の社会サービス活動への参加の現状

(1) 弱い立場の人々のために

去年1年間と今年になつてから、自分のみよりではないが、弱い立場の人々のためにな

にかしたことがあるかという問に対して「したことがある」という答が８３％、「したことがない」１７％である。したことの全件数のうち８６％は共同募金、オ末助け合い運動への協力など広範囲な寄付活動で、活動の性格上受動的、機械的なものが多いとみられる。残り１４％は、社会福祉施設 ― とくに老人や孤児のための施設が多い ― への慰問や労働奉仕、金銭、日用品の寄付などで参加者はどちらかといえば若い層に多かつた。これらの活動は町内会、婦人会を通して行なわれたものが最も多く、その他の経路として、学校、ＰＴＡ、労働組合、宗教団体、事業所、赤十字、報道機関等があり、又個人や有志の仲間で行なわれたものもある。

(2) その他社会を積極的によくするために

去年１年間と今年になつてから、社会をよくするための活動 ― たとえば、学校教育や社会教育の向上、風紀や政治をよくする、住みよい環境をつくるなど ― に参加したことがあるかという問に対しては、「したことがある」２０％、「したことがない」８０％である。したことは学校教育に関するものが圧倒的に多く、次いで環境衛生に関するものが多かつた。従つて参加の経路もＰＴＡ、町内会を通じて参加したものが多い。

4. 社会サービス活動への意欲

弱い立場の人々や不幸な人々を援助したり、社会を積極的によくしたりするために、できればもつとなにかしようと思うかという質問に対して、「できればもつとしようと思う」と一応答えているものが７６％に及んでいる。年令別にみても年令にあまり関係なく「しようと思う」と答えているものが多い。

5. 社会サービス活動に参加しにくい理由

前項でみられるように大多数の人が社会サービス活動への意欲をもつていると思われるが、活動に参加しにくいのはどんな理由からであろうか。その理由として「時間がない」という答が、一番多くて５０％、「適当な方法や機会がない」が３７％、「経済的な余裕がない」をあげたもの２８％となつている。

6. 参加を希望する社会サービス活動

社会サービス活動についてこんなことがしてみたい、こんなことのためになにかしたいという希望については、社会福祉施設への奉仕、慰問および施設拡充援助、子どもの施設の拡充、国土、地域の美化、改善、被災者、困窮者、僻地への援助、青少年補導、生活改善などがあげられている。

Ⅱ 調 査 結 果

4. 社会サービス活動の必要性についての意識

> 問 社会にはいろいろの問題があつて、弱い人や不幸な人がいます。たとえばみよりのないまずしい老人がいたとしますと、社会がその人に経済的な援助とか、世話とか、なぐさめとかを与えていくことが必要でしょうか？ もし必要ならどんな方法でするのがよいでしょうか？

まず、社会サービス活動の必要性について、婦人はどう考えているかをみるために弱い人、不幸な人に対する援助の必要とその方法について質問し、次の答を印刷したカードを対象者に渡して、ひとつだけ答を選んでもらつた。結果は次の通りである。

1. 個人より、国や市が公のしごととしてたすけるのがよい	43％
2. 国や市にたよるだけでなく、社会一般の人々も援助することが必要だ	49
3. しんせき、ともだちなど縁のちかい人がたすけて、社会にめいわくをかけないほうがよい	5
4. 本人の責任で解決すべきことだから、あまりたすける必要はない	1
5. その他、不明	2

答２「国や市にたよるだけでなく、社会一般の人々も援助することが必要だ」をあげたものが４９％で、約半数が一応積極的に市民による援助活動の必要をみとめている。ついで答１「個人より、国や市が公のしごととしてたすけるのがよい」が４３％である。むろん答１をあげた人も市民による援助活動を必ずしも否定するものではないであろうし、答２をあげた人も公的援助のほうをより重くみる場合もあろうが、市民活動についておよその意欲をうかがうことができよう。公的援助も、市民援助もあまり必要と認めないものは少くないが、縁の近い人々で助けるべきだとするものが５％、本人の責任で解決すべきことだからあまり助ける必要はないとするものが１％ある。

6大都市・中都市別

市民活動の必要をみとめるものは6大都市47%、中都市50%で6大都市よりも中都市にやや多い。

		計 実数	計 %	個人より、国や市が公のしごととしてたすけるのがよい	国や市にたよるだけでなく、社会一般の人々も援助することが必要だ	しんせき、ともだちなど縁のちかい人がたすけて社会にめいわくをかけないほうがよい	本人の責任で解決すべきことだから、あまりたすける必要はない	その他・不明
計		1,478	100	43%	49%	5%	1%	2%
都市規模別	6大都市	625	100	45	47	4	1	3
	中都市	853	100	41	50	6	1	2

年令別

市民活動の必要をみとめるものは、20代60%、30代52%、40代42%、50代40%と年令の若い層ほど多く、公的援助にたよるとするものは20代35%、30代42%、40代49%、50代50%と高年層ほど多くなっている。

		計 実数	計 %	個人より、国や市が公のしごととしてたすけるのがよい	国や市にたよるだけでなく、社会一般の人々も援助することが必要だ	しんせき、ともだちなど縁のちかい人がたすけて社会にめいわくをかけないほうがよい	本人の責任で解決すべきことだから、あまりたすける必要はない	その他・不明
計		1,478	100	43%	49%	5%	1%	2%
年令別	20代	371	100	35	60	3	1	1
	30代	397	100	42	52	5	1	0
	40代	326	100	49	42	5	1	3
	50代	229	100	50	40	7	0	3
	60才以上	155	100	44	41	6	1	8

学歴別

市民活動の必要をみとめるものは、新高卒、(60%)、新中卒(56%)に多い。

旧高専・新旧大卒及び「その他の学校卒」では公的援助にたよるとするものの割合が高い。

		計 実数	計 %	個人より、国や市が公のしごととしてたすけるのがよい	国や市にたよるだけでなく、社会一般の人々も援助することが必要だ	しんせき、ともだちなど縁のちかい人がたすけて社会にめいわくをかけないほうがよい	本人の責任で解決すべきことだから、あまりたすける必要はない	その他・不明
計		1,478	100	43%	49%	5%	1%	2%
学歴別	小卒以下	180	100	41	43	6	1	8
	高小卒	387	100	46	43	7	2	2
	新中卒	151	100	38	56	3	1	1
	旧高女卒	433	100	43	50	6	1	1
	新高卒	214	100	36	60	4	—	0
	旧高専・新旧大卒	67	100	52	43	—	—	5
	その他	35	100	63	37	—	—	—
	不明	14	100	64	36	—	—	—

世帯の収入別

市民活動の必要を認めるものは、手取り月収2～5万円の収入階層にやや多く(58%)。

個人より公的援助にたよるとするものは10万円以上の階層に多くみられる。(52%)

		計 実数	計 %	個人より、国や市が公のしごととしてたすけるのがよい	国や市にたよるだけでなく、社会一般の人々も援助することが必要だ	しんせき、ともだちなど縁のちかい人がたすけて社会にめいわくをかけないほうがよい	本人の責任で解決すべきことだから、あまりたすける必要はない	その他・不明
計		1,478	100	43%	49%	5%	1%	2%
世帯の収入階層別	2万円未満	277	100	45	44	5	1	4
	2～5万円	816	100	42	52	4	1	1
	5～10万円	270	100	44	45	5	1	4
	10万円以上	83	100	52	39	8	—	1
	不明	32	100	25	63	3	—	9

職業別

市民活動の必要をみとめるものは、雇用者が53％でもつとも高く（とくに事務従事者では58％）、ついで家事専従の主婦に多い。公的援助にたよるとするものは、調査実数が少ないのであまり適当でないが、学生が5.6％でもつとも多く、ついで内職者、家族従業者が多い。

	計		個人より国や市が公のしごととしてたすけるのがよい	国や市にたよるだけでなく、社会一般の人々も援助することが必要だ	しんせき、ともだちなど縁のちかい人がたすけて、社会にめいわくをかけないほうがよい	本人の責任で解決すべきことだから、あまりたすける必要はない	その他 不明
	実数	%					
計	1,478	100	43%	49%	5%	1%	2%
自営者	116	100	45	47	4	2	2
雇用者	318	100	43	53	3	1	0
家族従業者	87	100	47	40	8	2	—
内職	75	100	50	40	4	1	5
家事専従	787	100	42	50	5	0	3
学生	23	100	56	35	—	—	9
その他	72	100	41	45	7	1	6

2. 社会サービス活動の現状についての意見

(1) 公的援助について

> 問　国や市はこういうみよりのない老人、子ども、病人、身体の不自由な人などへの援助をよくやつていると思いますか？

弱い人、不幸な人に対する公的援助について上のように質問し、あらかじめ設定した答の中から一つだけ答えてもらつた結果は次のとおりである。

1. よくやつている　7％
2. まあまあやつている　30
3. やり方が足りない　42％
4. わからない　19
5. その他　2

全体としての評価をみると「やり方が足りない」という答が42％で「よくやつている」「まあまあやつている」の合計37％をやや上廻る。「わからない」という答が19％と高率であるが、だいたい社会サービス活動の実情をよく知らないとか、あまり関心がないことを示すものとみてよかろう。

6大都市・中都市別

「よくやつている」「まあまあやつている」の計が6大都市では34％、中都市では41％であるのに対して、「やりかたがたりない」は6大都市46％、中都市40％で、6大都市に「やりかたがたりない」と感ずるものが多い。

		計		よくやつている	まあまあやつている	やり方がたりない	わからない	その他
		実数	%					
計		1,478	100	7%	30%	42%	19%	2%
都市規模別	6大都市	625	100	6	28.8	46	19	1
	中都市	853	100	9	32	40	18	1

年令別

「よくやつている」「まあまあやつている」をあわせて、20代33％、30代34％、40代40％、50代48％と、高年層になるほど多く、「やりかたがたりない」は20代50％、30代48％、40代41％、50代34％と若い層ほど多い。

第1問では若い層ほど「市民による社会サービス活動の必要性」を認めるものが多く、公的援助にたよるべきだという答は年長の層に多かつたが、ここでは公的援助の現状について若い層に「やりかたがたりない」という答が多くみられ、全般的に、公的援助によるものと市民活動によるものとを問わず、社会サービス活動への関心は若年層に強いといえよう。

		計		よくやつている	まあまあやつている	やり方が足りない	わからない	その他
		実数	%					
計		1,478	100	7%	30%	42%	19%	2%
年令別	20代	371	100	3	30	50	15	2
	30代	397	100	5	29	48	18	0
	40代	326	100	9	31	41	17	2
	60代	229	100	15	33	34	16	2
	60才以上	155	100	10	30	25	34	1

60才以上には「わからない」という答が34％と多い。

学歴別

一般に学歴が高くなるにつれて、「やりかたがたりない」の答の割合が高い。

		計 実数	計 %	よくやっている	まあまあやっている	やり方が足りない	わからない	その他
計		1,478	100	7%	30%	42%	19%	2%
学歴別	小卒以下	180	100	12	27	27	34	0
	高小卒	387	100	10	33	33	23	1
	新中卒	151	100	3	31	44	21	1
	旧高女卒	433	100	8	30	48	13	1
	新高卒	211	100	4	33	50	11	2
	高専・大卒	67	100	3	26	64	7	—
	その他	35	100	—	23	66	8	3
	不明	14	100	7	21	36	36	—

世帯の収入階層別

世帯の収入階層による差は、年令による差ほど顕著にあらわれていないが、「やりかたがたりない」という答は5～10万円の階が47％でもっとも多く2万円未満と10万円以上では38％、40％とやや少い。10万円以上では「やっている」という答が46％とかなり高率であるのに対して、2万円未満ではむしろ「わからない」に想った答が多い。

		計 実数	計 %	よくやっている	まあまあやっている	やり方が足りない	わからない	その他
計		1,478	100	7%	30%	42%	19%	2%
世帯の収入階層別	2万円未満	277	100	9	29	38	23	1
	2—5万円	816	100	7	32	42	18	1
	5—10万円	270	100	6	27	47	17	3
	10万円以上	83	100	10	36	40	14	—
	不明	32	100	9	13	47	31	—

職業別

「やり方が足りない」という答は雇用者が49％でもっとも多い。家事専従の主婦では「やり方が足りない」の答は39％でやや少なく、「やっている」とほぼ同じ割合である。学生は調査実数が少ないが91％までが「やり方が足りない」と答えている。

		計 実数	計 %	よくやっている	まあまあやっている	やり方が足りない	わからない	その他
計		1,478	100	7%	30%	42%	19%	2%
本人の職業別	自営	116	100	10	25	42	20	3
	雇用	318	100	5	30	49	15	1
	家族従業	13	100	23	—	23	46	8
	家事専従	787	100	7	33	39	19	2
	学生	23	100	—	9	91	—	—
	その他	147	100	10	28	37	24	1

(2) 市民による援助について

> 問 全体的にみて、社会一般の人々や民間の団体は、こういう弱い人々をよく援助していると思いますか？

社会一般の人々の援助（ボランタリー・サービス）についての評価は次のとおりである。

1 よくやっている 8％
2 まあまあやっている 28
3 やり方が足りない 38
4 わからない 24
5 その他 2

ここでも「やり方が足りない」が38％で「よくやっている」「まあまあやっている」の合計36％をやや上廻るが、国や市に対するよりも「やり方が足りない」の割合が幾分低くなっている。これは市民活動の実情が国や市の活動よりも一般にわかりにくいなどのためにあるていどまではつきりした意見がさしひかえられているとみることができよう。

従ってここでは「わからない」という答が公的援助の場合よりも一層多く24％に及んでいる。

6大都市・中都市別

「よくやっている」「まあまあやっている」の計が6大都市31％、中都市36％であるのに対して「やり方がたりない」は6大都市40％、中都市37％と、公的援助の場合とおなじように、6大都市でやり方が足りないと感ずるものが多い。

		計 実数	計 %	よくやっている	まあまあやっている	やり方がたりない	わからない	その他
総数		1,478	100	8%	28%	38%	24%	2%
都市規模別	6大都市	625	100	9	23	40	27	1
	中都市	853	100	8	30	37	23	2

年令別

「よくやつている」「まあまあやつている」の計が20代36%、30代37%、40代28%、50代44%に対し、「やりかたがたりない」は20代38%、30代42%、40代42%、50代35%と、30代、40代に「やり方がたりない」と50代に「やつている」という答が多いが、公的援助の場合ほど、年令による差が大きくない。「わからない」という答は全般に高率で、60才以上では39%をしめている。

		計 実数	計 %	よくやつている	まあまあやつている	やり方が足りない	わからない	その他
計		1,478	100	8%	28%	38%	24%	2%
年令別	20代	371	100	6	30	38	24	2
	30代	397	100	9	28	42	19	2
	40代	326	100	7	21	42	27	3
	50代	229	100	12	32	35	20	1
	60才以上	155	100	8	27	26	39	—

収入階層別

「やり方が足りない」の答は公的援助の場合とおなじく、5－10万円の層が46%でもつとも多く、2万円未満と10万円以上で35%、36%とやや少ない。「やつている」という答はどの階層も低率で、「わからない」に廻つた答が多い。

		計 実数	計 %	よくやつている	まあまあやつている	やり方が足りない	わからない	その他
計		1,478	100	8%	28%	38%	24%	2%
世帯の収入階層別	2万円未満	277	100	9	23	35	32	1
	2－5万円	816	100	8	31	37	22	2
	5－10万円	270	100	6	25	46	21	2
	10万円以上	83	100	14	21	36	27	2
	不明	32	100	6	22	25	41	6

職業別

学生、自営者及び雇用者では「やり方が足りない」と答えたものの割合が高い。家事専業の主婦では公的援助の場合と同様、「やつている」と「やり方が足りない」はほぼ同率である。

		計 実数	計 %	よくやつている	まあまあやつている	やり方が足りない	わからない	その他
計		1,478	100	8%	28%	38%	24%	2%
本人の職業別	自営	116	100	10	23	47	18	2
	雇用	318	100	5	26	44	23	2
	家族従業	13	100	23	15	23	31	8
	家事専従	787	100	8	29	36	26	1
	学生	23	100	9	17	52	9	13
	その他	147	100	10	29	32	29	—

3　婦人の社会サービス活動への参加の現状

(1)　弱い立場の人々のために

問　a）去年1年間と今年になつてから、あなたは自分の身内でないけれども弱い人・不幸な人、たとえばみよりのない老人、子ども、病人とか体の不自由な人などのためになにかなさつたことがありますか？　たとえば赤い羽根共同募金、歳末助けあい運動、風水害被災者救援などのためにお金や品物を寄付したとか、病院や血液銀行に献血したとか、老人やみなしごの施設などを訪問したとか、点字本の作成その他の労力奉仕したとか、慰安やはげましの催やバザーをやつたとか、調査や、世論かん起、陳情などをしたとか、そのほかなんでも弱い人・不幸な人のためにしたことがあれば、おつしやつて下さい。ただし、はつきり職業としてしていることや民生委員などの公職でしていることは除きます。

b）今おつしやつたことは、どこかの団体や機関を通じてなさいましたか？それともあなた個人として、またはみじかな仲間の方となさいましたか？

c）今おつしやつたことの中で、あなた自身が発起人として、または団体などの役員として積極的になさつたものがありますか？

d）やはり今おつしやつたことの中で、あなたがとくによろこんでなさつたものがありますか？　反対にいやだつたがつきあいでなさつたものがありますか？

問a）に対して、なにかしたことがあると答えた人とないと答えた人の割合は次のとおりである

なにかしたことがある	83%
したことがない	17

年令別

年令別にみると、30代、40代、50代の中年層では「したことがある」と答えた人が85～87%で、20代の78%、60代の74%に比べて多くなつている。これは世帯の主婦として、町会や婦人会等を通して行なわれる募金活動に参加する機会が20代や60代の人に比べて多いためであろう。

		計	数	したことがある	したことがない
		実数	%		
計		1,478	100	83%	17%
年令別	20代	371	100	78	22
	30代	397	100	85	15
	40代	326	100	87	13
	50代	229	100	87	13
	60才以上	155	100	74	26

活動の種類及び参加の経路

活動の種類には、「赤い羽根共同募金への献金、歳末助け合い運動への参加、風水害、その他の災害の被害者への金品の救援、その他奉仕、慰問活動などがみられ、件数の割合は次のようになつている。

件数		赤い羽根共同募金への献金	歳末助け合い運動への参加	被災害者への救援	その他奉仕慰問活動など
実数	%				
2,165	100	61%	14%	11%	14%

共同募金への献金が半ば以上を占め、これに歳末助け合い運動への参加、被災者への救援等を併せると86%と絶対多数を占めている。以上は、規模の広い寄付活動で各種の経路、例えば町内会、婦人会、PTA、労働組合、宗教団体、事業所、赤十字、報道機関等を通じて行なわれている。

残りの14%は、その他奉仕、慰問活動などで、社会福祉施設——とくに老人や孤児の施設が多い——への慰問や労働奉仕、金銭、衣類、日用品の寄はが多く、参加者はどちらかといえば若い層に多かつたのは、学校、職場、グループなどで参加の機会に接することが多いためであろう。

		件数		団体や機関をとおして	個人・仲間・街頭等で	発起人又は団体役員として	よろこんでした	いやだがした
		実数	%					
計		2,165	100	71%	29%	4%	88%	5%
都市規模別	6大都市	817	100	71	29	5	90	3
	中都市	1,348	100	72	28	4	87	6
活動の種類別	共同募金へ献金	1,327	100	70	30	3	86	6
	歳末助け合い運動への協力	304	100	80	20	4	91	3
	被害者への救援	288	100	81	19	4	93	2
	その他、奉仕慰問活動など	241	100	56	44	13	93	3

活動の参加の経路及び積極性の有無を数字の上からみると、上の表のとおり、団体や機関をとおしてしたもの71%、個人や仲間でしたもの29%である。このうち発起人又は団体役員としてしたことは4%であり、よろこんでしたもの88%、いやだがしたもの5%である。これを都市規模別にみても殆んど差はみられない。

上記の「共同募金」「歳末助けあい運動」「被災者救援」はその他活動に比べて団体や

機関を通じて行なわれる比率がきわめて高く、これが参加範囲をひろげる効果を高めていることはいうまでもない。その反面参加する個々の調査対象者の態度からみれば受動的、機械的な形をとるものが多い。「その他奉仕、慰問活動など」の場合には、個人や仲間でしたものの割合が高く、半ば近くを占め、又発起人又は団体役員としてしたものの割合が、他と比べて著しく高い。

なお、この「その他奉仕、慰問活動など」は、参加の経路、活動の種類も多様にわたるので、具体例をあげておく。

［具　体　例］

イ）　社会福祉施設等への経済的援助

- 社会福祉施設へ贈るためバザーや資金カンパをした（学生団体、職場仲間婦人会）
- 老人ホームへ贈るひざかけを作つた（学生の仲間で）
- 救ライ協会へ献金（個人で）
- 施設に贈る衣料、日用品などをあつめた（町内会で、婦人会で、ＰＴＡで）
- 施設の子どもに贈る学用品を買う資金あつめをした（職場の仲間で）

ロ）　慰問、労力奉仕等

- 養老院、養護施設への定期散髪奉仕をしている（同業組合の仲間で、個人で）
- 施設の子へ演劇慰問（職場の仲間で）音楽慰問（学生の有志で）
- 養老院、養護施設の春秋大掃除奉仕（洋裁学校の仲間で）
- すし、ケーキなどを作つて施設を慰問した（料理学校の仲間で）
- 年1回老人ホームへ行き、洗濯つくろい、食事つくりなどする（婦人会で）
- としよりの日の催しをした（婦人会で、町内会で）
- 老人ホームへ舞踊慰問した（舞踊仲間で）
- 身体不自由児の施設に行き、洗濯、つくろいなどする（個人で）
- 保育施設を訪問、遊び相手をする（個人で）
- 病気で街頭に倒れていた老人を車で家へ送つた（同行の友人達と）
- 病院を訪問し、花をかざる（教会の仲間で）
- 助産婦をたのめない家のお産の世話をした（個人で）
- みよりのない子をひきとり、里親として養育し社会に送り出している（個人で）
- 施設の子どもを家に招き、家庭的にもてなし、ドライブにつれていつた（個人で）

(2)　社会を積極的によくするために

問　a）今までは、とくに弱い人、不幸な人のことについて伺いましたが、今度はもつとひろげて、積極的に社会をよくする活動について伺います。

去年1年間と今年になつて、あなたはたとえば学校教育や社会教育の向上のためとか、風紀政治をよくするためとか、住みよい環境をつくるためとか、公共の場所をきれいにするためとか、その他なんでも社会をよくするための活動に参加なさつたことがあればおつしやつて下さい。ただしはつきりと職業や公職でしていることは除きます。

b）今おつしやつたことは、どこかの団体や機関を通じてなさいましたか？それともあなた個人として、又はみじかな仲間の方となさいましたか？

c）今おつしやつたことの中で、あなた自身が発起人として、又は団体などの役員として積極的になさつたものがありますか？

d）やはり今おつしやつたことの中で、あなたがとくによろこんでなさつたものがありますか？　反対にいやだつたが、つきあいでなさつたものがありますか？

問a）に対する答は次のとおりである。

なにかしたことがある	20％
したことがない	80

活動の種類及び参加経路

		件数 実数	件数 %	団体や機関をとおして	個人や仲間で	発起人又は団体役員として	よろこんでした	いやだがした
計		336	100	79％	21	19％	86％	4％
都市規模別	6大都市	128	100	79	21	21	84	6
	中都市	208	100	78	22	18	88	3

したことの種類は、子どもの教育に関するものが圧倒的に多い。即ち、経済的援助として、教育施設拡充のための学校、幼稚園等への金銭の寄付、廃品回収、バザー等を通し

ての物品の寄付などであり、個人的奉仕として、給食の手伝い、通学途上の交通監視、図書の整理、カーテン、雑布、つくりなどの労力奉仕である。

次いで多かつたのは、環境改善に関するもので、ドブの掃除・消毒、公共の場所の清掃、道路作りや街灯の設置への協力などがあげられている。

その他、公明選挙運動、みどりの羽根募金への献金、物価値上反対運動、原水爆反対運動、平和運動、風紀浄化運動などへの参加がみられた。

参加経路をみると、弱い立場の人々のための場合と同様、「団体や機関をとおして」79％「個人や仲間で」21％となつている。そのうち、発起人又は団体役員としてしたことは19％で(1)の場合と比べてその割合が著しく高い。都市規模別では、とくに差はみられない。

4 社会サービス活動への意欲

問 弱い人、不幸な人を援助したり、社会を積極的によくしたりするために、あなたはできればもつとなにかしようと思いますか？ それともとくにしようとは思いませんか？

婦人は社会サービス活動への参加について、どんな考えをもつているかをみると、次のとおりである。

1. しようと思う　76％
2. とくにしようとは思わない　17
3. その他　7

「できればもつとなにかしようと思う」と答えた人が76％に及び、社会サービス活動に参加しようという気持は一応かなり広くもたれている。

年令別

この意欲は年令に関係なくみられ、20代の80％を最高に50代までいずれも75％以上になつている。

「とくにしようとは思わない」という答が30代と60代に幾分多いのは、30代では家庭的責任、とくに子どもに手がかかるため、60才以上では老令のためと思われる。

		計 実数	計 %	しようと思う	とくにしようとは思わない	その他	不明
計		1,478	100	76%	17%	7%	0%
年令別	20代	371	100	80	15	5	0
	30代	397	100	75	19	6	0
	40代	326	100	77	17	6	0
	50代	229	100	78	15	7	—
	60才以上	155	100	63	23	14	—

学歴別

「しようと思う」と答えた人は、新高卒が83％、旧高女卒が80％でもつとも多く、旧専、大学卒は平均、小卒以下が66％と低くなつている。

		計 実数	計 %	しようと思う	とくにしようとは思わない	その他	不明
計		1,478	100	76%	17%	7%	0%
学歴別	小卒以下	180	100	66	21	13	—
	高小卒	387	100	74	17	8	1
	新中卒	151	100	74	20	6	1
	旧高女卒	433	100	80	15	5	0
	新高卒	211	100	83	15	2	—
	旧高専・大卒	67	100	76	19	5	—
	その他	35	100	66	23	11	—
	不明	14	100	64	36	—	—

5 社会サービス活動に参加しにくい理由

問 なにかしようと思つても、なかなかできにくい理由があればおつしやつて下さい。

前項でみたように、婦人の社会サービス活動に対する意欲はかなりあると思われるが、現

際になにかしようと思つても、なかなかできにくい理由はどんなものかをみると、次の通りである。（あらかじめ答を設定し、答はいくつでもあてはまるものに○をつけてもらつた。）

1　適当な方法や機会がない	37%
2　忙しくて時間がない	50
(イ)　手のかかる子どもがいる	14
(ロ)　職業上忙しい	25
(ハ)　その他	8
(ニ)　不　明	6
3　経済的な余裕がない	28
4　その他	14
5　不　明	2

最も多いのは「忙がしくて時間がない」という理由で、半数の人がこの理由をあげている。うちわけをみると「職業上忙しい」がもつとも多く、ついで「手のかかる子どもがいる」となつている。

次いで多いのは「適当な方法や機会がない」で37%の人がこの理由をあげている。これは、よびかけや仲立ちをしてくれるものがあればやれるとか、どこでなにをしたらよいかについて知識がないので、どうしてよいかわからないなどというものである。

「経済的な余裕がない」という理由がこれに次いでいる

年令別

		計		適当な方法や機会がない	忙がしくて時間がない	(イ)手のかかる子どもがいる	(ロ)職業上忙しい	(ハ)その他	(ニ)不明	経済的な余裕がない	その他	不明
		実数	%									
計		1,478	100	37%	50%	14%	25%	8%	6%	28%	14%	2%
年令別	20代	371	100	46	52	18	26	5	4	28	9	1
	30代	397	100	36	62	29	25	7	6	26	9	2
	40代	326	100	32	49	6	28	10	7	32	11	1
	50代	229	100	34	44	2	28	9	5	30	19	3
	60才以上	155	100	28	24	1	7	10	5	27	36	6

（多答式なので合計は100にならない）

できない理由を年令別にみると、「適当な方法や機会がない」という答は若年層に多い。「忙がしくて時間がない」の理由が30代でとくに多いのは、「手のかかる子どもがいる」の理由が29%もあるためである。子どもを理由とするものは20代で18%、40代以降ではごく少ない。高年令層ではむしろ「職業が忙しい」が多い。

「経済的な余裕がない」の理由は、高年令層にやや多い。

収入階層別

		計		適当な方法や機会がない	忙しくて時間がない	(イ)手のかかる子どもがいる	(ロ)職業上忙しい	(ハ)その他	(ニ)不明	経済的な余裕がない	その他	不明
		実数	%									
計		1,478	100	37%	50%	14%	25%	8%	6%	28%	14%	2%
世帯の収入階層別	2万円未満	277	100	26	44	6	31	3	5	49	17	3
	2—5万円	816	100	36	51	19	20	8	6	29	14	2
	5—10万円	270	100	44	53	10	30	13	4	10	11	1
	10万円以上	83	100	57	55	7	34	10	6	11	2	1
	不明	32	100	25	31	3	16	9	3	41	25	3

（注：多答式なので合計は100にならない）

「適当な方法や機会がない」「忙がしくて時間がない」の理由は、収入の高くなるほど、割合も高くなる傾向がみられる。「経済的な余裕がない」の理由は収入が高くなるほど少なくなる。2万円未満の階層では、半数が「経済的な余裕がない」と答えている。

「忙がしくて時間がない」のうちわけをみると

◎　全階層にわたつて「職業上忙しい」という答がもつとも多いが、2—5万円の層では、「手のかかる子どもがいる」というものが19%、他の階層に比べてめだつて多く、「職業上忙しい」という理由とほぼ同じ比重をしめている。その他の階層では子どもに手がかかるが6〜10%で比較的少く、職業上忙しいというものが30%以上に及んでいる。

6　参加を希望する社会サービス活動

問　とくに、こんなことがしてみたいとか、こういうことのためになにかしたいということがあれば、おつしやつて下さい。

前述のように全体の76%の人が「できればもつとなにかしようと思う」と答えているが、上の問に対して具体的な活動の希望を出した人は33%あつた。

希望する活動を多い順にあげると次のとおりである。

- 社会福祉施設への奉仕、慰問及び施設拡充援助
- 子どもの施設（保育所、学校、公園、遊び場等）の拡充。
- 子どものグループの育成
- 国土、地域の美化、改善（道路、公共施設の改善、交通の危険防止、街路樹や緑地の保護、街灯の整備、騒音防止等）
- 被災者、困窮者、僻地への援助
- 青少年補導
- 生活改善

「婦人の社会サービス活動に関する意識調査」

地　点　表

地点番号	県名	市区名	地点番号	県名	市区名
1	北海道	札幌市	21	東京	世田谷区
2		室蘭市	22		中野区
3	青森	青森市	23		杉並区
4		弘前市	24		豊島区
5	岩手	盛岡市	25		北区
6	宮城	仙台市	26		板橋区
7	茨城	水戸市	27		足立区
8	栃木	宇都宮市	28		足立区
9	群馬	前橋市	29		江戸川区
10	埼玉	川口市	30		八王子市
11		大宮市	31	神奈川	横浜市 鶴見区
12	東京	千代田区	32		〃 南区
13		港区	33		〃 港北区
14		文京区	34		川崎市
15		台東区	35		横須賀市
16		江東区	36		小田原市
17		品川区	37	新潟	新潟市
18		目黒区	38	石川	金沢市
19		大田区	39	福井	福井市
20		世田谷区	40	長野	松本市

地点番号	県名	市区名	地点番号	県名	市区名
41	岐阜	岐阜市	61	兵庫	神戸市 兵庫区
42	静岡	浜松市	62		姫路市
43		清水市	63		尼崎市
44	愛知	名古屋市 東区	64	和歌山	和歌山市
45		〃 中村区	65	島根	松江市
46		〃 熱田区	66	岡山	岡山市
47	三重	四日市市	67	広島	広島市
48	京都	京都市 北区	68	山口	宇部市
49		〃 中京区	69	香川	高松市
50		〃 右京区	70	愛媛	新居浜市
51	大阪	大阪市 福島区	71	福岡	福岡市
52		〃 大正区	72		福岡市
53		〃 東淀川区	73		八幡市
54		〃 生野区	74		大牟田市
55		〃 城東区	75		久留米市
56		〃 東住吉区	76	長崎	長崎市
57		堺市	77		佐世保市
58		豊中市	78	熊本	八代市
59		八尾市	79	宮崎	延岡市
60	兵庫	神戸市 東灘区	80	鹿児島	鹿児島市